

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	卒業要件 (74単位)
区分	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	
必修科目	オール・コミュニケーションⅠ(1) オール・コミュニケーションⅡ(1) プレゼンテーションⅠ(1) プレゼンテーションⅡ(1) コミュニカティブ・ライティングⅠ(1) コミュニカティブ・ライティングⅡ(1) リーディングⅠ(1) リーディングⅡ(1) ワークショップⅠ(1) ワークショップⅡ(1) 英語情報処理演習Ⅰ(1) 英語情報処理演習Ⅱ(1) 国際英語学概論Ⅰ(2) 国際英語学概論Ⅱ(2) シンガポール研修(2)	国際英語学演習Ⅰ(2) 国際英語学演習Ⅱ(2) オール・コミュニケーションⅢ(1) オール・コミュニケーションⅣ(1) プレゼンテーションⅢ(1) プレゼンテーションⅣ(1) コミュニカティブ・ライティングⅢ(1) コミュニカティブ・ライティングⅣ(1) リーディングⅢ(1) リーディングⅣ(1) 上級英語情報処理演習Ⅰ(1) 上級英語情報処理演習Ⅱ(1) 国際キャリア・ディベロップメント(2)	国際英語学演習Ⅲ(2) 国際英語学演習Ⅳ(2) オール・コミュニケーションⅤ(1) プレゼンテーションⅤ(1) リーディングⅤ(1) リーディングⅥ(1)	国際英語学演習Ⅴ(2) 国際英語学演習Ⅵ(2)	46単位
選択必修科目		アメリカ研修(2) オーストラリア研修(2) 海外基礎研究(2)	1科目必修 ジャーナリズムⅠ(1) アカデミック・ライティングⅠ(1) クリエイティブ・ライティングⅠ(1)	1科目必修 ジャーナリズムⅡ(1) アカデミック・ライティングⅡ(1) クリエイティブ・ライティングⅡ(1)	4単位
選択科目	英語音声学Ⅰ(2)《教必》 英語音声学Ⅱ(2)《教必》 英語資格講座Ⅰ(総合指導)(2) 英語資格講座Ⅱ(英検)(2) 英語資格講座Ⅲ(TOEIC)(2) 英語資格講座Ⅳ(TOEFL)(2)	英語学概説Ⅰ(2)《教必》 英語学概説Ⅱ(2)《教必》			24単位
		(国際地域研究科目群) 国際地域研究入門Ⅰ(2) 国際地域研究入門Ⅱ(2) 比較文化論Ⅰ(2)《教必》 比較文化論Ⅱ(2)《教必》			
		(コミュニケーション研究科目群) △マスメディアと英語(2) △社会言語学Ⅰ(2) △社会言語学Ⅱ(2) 観光学と英語(2) アジア英語研究Ⅰ(2) アジア英語研究Ⅱ(2)			
		(言語教育研究科目群) 日本語教授法Ⅰ(2) 日本語教授法Ⅱ(2) 日本語教育実習Ⅰ(2) 日本語教育実習Ⅱ(2) 早期英語教育Ⅰ(2) 早期英語教育Ⅱ(2) カウンセリング実習Ⅰ(2) カウンセリング実習Ⅱ(2)			
		(英語圏文学研究科目群) イギリス文学研究(2)《教必》 アメリカ文学研究(2)《教必》 オーストラリア文学研究(2)《教必》 国際英語文学研究(2)《教必》			
		(国際ビジネス研究科目群) 国際ビジネス論Ⅰ(2) 国際ビジネス論Ⅱ(2) 国内企業インターンシップ(2) 航空ビジネス論(2) 国際情報と企業戦略(2) 国際言語管理(2)			
		国際ビジネス研修Ⅰ(2) 国際ビジネス研修Ⅱ(2)			
		(海外大学交換講座群) 海外大学交換講座Ⅰ(2) 海外大学交換講座Ⅱ(2)			
		(演習実技科目群) 通訳演習Ⅰ(2) 通訳演習Ⅱ(2) 翻訳演習Ⅰ(2) 翻訳演習Ⅱ(2) 英語資格講座Ⅴ(上級資格)(2) 英語資格講座Ⅵ(上級資格)(2)			
	(司書科目群)	図書館概論(2)			
		(海外研修科目群) 海外留学〔分割認定可〕(12)			
	(実用科目群)	実用文章Ⅰ(2) 実用文章Ⅱ(2) 海外業界研究Ⅰ(4) 海外業界研究Ⅱ(6)			
		英語科教育法Ⅱ(4)《教必》	英語科教育法Ⅰ(4)《教必》		

①《教必》は教職必修科目です。

②教職課程履修者は▶▶P94参照 教職課程のページで確認して下さい。

③△印は2004年度から偶数年、隔年開講です。

④選択科目のうち卒業要件を超えて修得した単位はフロート単位として認定されます。

履修モデル一覧表

国際ビジネスキャリアを目指す人の履修例

この履修例は、各種の演習、海外企業インターンシップなどの現場体験を通して、高い英語力という基礎を確立し、この英語力を駆使して一般企業、海外企業、公的機関など国際対応力を必要とする職業につく人材を育成することを目的とします。

学年	1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位
必修	オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ プレゼンテーションⅠ・Ⅱ コミュニケーションⅠ・Ⅱ リーディングⅠ・Ⅱ ワークショップⅠ・Ⅱ 英語情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 国際英語学概論Ⅰ・Ⅱ シンガポール研修	各1 各1 各1 各1 各1 各1 各2 2	オーラルコミュニケーションⅣ プレゼンテーションⅢ・Ⅳ コミュニケーションⅢ・Ⅳ リーディングⅢ・Ⅳ 上級英語情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 国際英語学演習Ⅰ・Ⅱ 国際キャリア・ディベロップメント	各1 各1 各1 各1 各1 各2 2	オーラルコミュニケーションⅤ プレゼンテーションⅤ リーディングⅤ・Ⅵ 国際英語学演習Ⅲ・Ⅳ	1 1 各1 各2	国際英語学演習Ⅴ・Ⅵ	各2
選必修			アメリカ研修 オーストラリア研修 海外基礎研究	2 2 2	ジャーナリズムⅠ・Ⅱ	各1		
選択	英語資格講座Ⅰ・Ⅲ 実用文章Ⅰ・Ⅱ	各2 各2	比較文化論Ⅰ・Ⅱ 観光学と英語 海外業界研究Ⅰ 海外業界研究Ⅱ	各2 2 4 6	国際ビジネス論Ⅰ・Ⅱ 国際言語管理	各2 2	国際地域研究入門Ⅰ・Ⅱ 英語資格講座Ⅴ 海外大学交換講座Ⅰ・Ⅱ	各2 2 各2

言語教育専門家を目指す学生の履修例

この履修例は、日本における英語教育者のみならず、日本語教育学の素養を持って、国内外での日本語教育に従事する者を育成し、また外国で英語を直接外国人に教える者だけでなく、英語を指導する外国人に対する英語教育の専門家も育成することを目的とします。

学年	1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位
必修	オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ プレゼンテーションⅠ・Ⅱ コミュニケーションⅠ・Ⅱ リーディングⅠ・Ⅱ ワークショップⅠ・Ⅱ 英語情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 国際英語学概論Ⅰ・Ⅱ シンガポール研修	各1 各1 各1 各1 各1 各1 各2 2	オーラルコミュニケーションⅣ プレゼンテーションⅢ・Ⅳ コミュニケーションⅢ・Ⅳ リーディングⅢ・Ⅳ 上級英語情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 国際英語学演習Ⅰ・Ⅱ 国際キャリア・ディベロップメント	各1 各1 各1 各1 各1 各2 2	オーラルコミュニケーションⅤ プレゼンテーションⅤ リーディングⅤ・Ⅵ 国際英語学演習Ⅲ・Ⅳ	1 1 各1 各2	国際英語学演習Ⅴ・Ⅵ	各2
選必修			アメリカ研修 オーストラリア研修 海外基礎研究	2 2 2	クリエイティブライティングⅠ・Ⅱ アカデミックライティングⅠ・Ⅱ	各1 各1		
選択	英語音声学Ⅰ・Ⅱ 実用文章Ⅰ・Ⅱ	各2 各2	英語学概説Ⅰ・Ⅱ 早期英語教育Ⅰ・Ⅱ 海外業界研究Ⅰ 海外業界研究Ⅱ	各2 各2 4 6	イギリス文学研究 日本語教授法Ⅰ・Ⅱ 国際英語文学研究	2 各2 2	比較文化論Ⅰ・Ⅱ 日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ カウンセリング実習Ⅰ・Ⅱ	各2 各2 各2

国際交流支援者を目指す学生の履修例

この履修例は、英語をツールとして、世界に飛び立ち多種多様な業種に積極的に携わることのできる人材、また日本人としてのアイデンティティを確立させ、日本の事情を英語で充分に発表できる英語力と情報力を有する人材を育成することを目的とします。

学年	1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位
必修	オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ プレゼンテーションⅠ・Ⅱ コミュニケーションⅠ・Ⅱ リーディングⅠ・Ⅱ ワークショップⅠ・Ⅱ 英語情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 国際英語学概論Ⅰ・Ⅱ シンガポール研修	各1 各1 各1 各1 各1 各1 各2 2	オーラルコミュニケーションⅣ プレゼンテーションⅢ・Ⅳ コミュニケーションⅢ・Ⅳ リーディングⅢ・Ⅳ 上級英語情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 国際英語学演習Ⅰ・Ⅱ 国際キャリア・ディベロップメント	各1 各1 各1 各1 各1 各2 2	オーラルコミュニケーションⅤ プレゼンテーションⅤ リーディングⅤ・Ⅵ 国際英語学演習Ⅲ・Ⅳ	1 1 各1 各2	国際英語学演習Ⅴ・Ⅵ	各2
選必修			アメリカ研修 オーストラリア研修 海外基礎研究	2 2 2	アカデミックライティングⅠ・Ⅱ	各1		
選択	英語資格講座Ⅰ	2	英語資格講座Ⅲ 観光学と英語 マスメディアと英語 海外業界研究Ⅰ 海外業界研究Ⅱ	2 2 2 4 6	国際地域研究入門Ⅰ・Ⅱ 比較文化論Ⅰ・Ⅱ 国際英語文学研究 国際ビジネス論Ⅰ・Ⅱ	各2 各2 2 各2	オセアニア地域研究Ⅰ・Ⅱ 海外大学交換講座Ⅰ・Ⅱ オーストラリア文学研究 アメリカ文学研究	各2 各2 2 2

(1) 必修科目**「コミュニケーション・ライティング」
「英語情報処理演習」科目群**

「コミュニケーション・ライティング」「英語情報処理演習」両科目群とも原則として、コンピュータ演習室で行われます。コンピュータのOSは、全てMicrosoft Windowsを使用します。新入生についてはコンピュータに必要なユーザー名とパスワードを開講前のガイダンスで交付します。

クラス編成についてはALBOで確認して下さい。

●Eメール(電子メール)の使用

「英語情報処理演習」においては、Eメールの使用が必須となります。各クラス開講第1週目に使用説明があるので「コミュニケーション・ライティング」については、教員の指示に従って下さい。

「プレゼンテーション」科目群

「プレゼンテーション」科目群を履修する全ての学生は、週に少なくとも一度、個々の自由時間において指定教材・課題の視聴を行わなければなりません。

年間を通じての「映画教材」の学習は、それぞれの「プレゼンテーション」の授業にて、学習した教材の内容に関する小テストやディスカッションが課せられます。

クラス編成についてはALBOで確認して下さい。

「オーラル・コミュニケーション」科目群

3年生の「オーラル・コミュニケーションV」では、「プレゼンテーション」科目群と同様に指定教材・課題の視聴を行わなければなりません。

クラス編成についてはALBOで確認して下さい。

「ワークショップ」科目群

この科目は1学期につき3人の教員が交代で指導します。B5サイズ(50ページ)の大学ノートを生協にて購入し、最初のクラスに持参しなければなりません。

クラス編成についてはALBOで確認して下さい。

「リーディング」科目群

この科目は「エクステンシブ・リーディング」と「インテンシブ・リーディング」で構成されます。

「エクステンシブ・リーディング」では、学生はセンタービル3階の図書館に配架されている「グレーデッド・リーダーズ」から自分のレベルにあった本を選択して読みます。

クラス編成についてはALBOで確認して下さい。

「シンガポール研修」

この研修では、夏期休暇または春期休暇を利用し、シンガポールの「言語教育研究所(RELC)」で3週間の英語研修を実施します。3つに編成したクラス(1クラス30名前後)ごとに、事前学習として春学期か秋学期のいずれかの授業を受けなければなりません。原則として、春学期履修者は夏季休暇中に、秋学期履修者は春季休暇中にシンガポールに出かけます。クラス編成については国際英語学科ガイダンス時に説明します。

「国際英語学演習」(ゼミ)科目群

「国際英語学演習V」では卒業論文作成の準備学習を行います。「国際英語学演習VI」では卒業論文を作成します。したがって、「国際英語学演習V」(春学期)の単位を修得しないと、「国際英語学演習VI」(秋学期)は履修できませんので注意して下さい。なお、「国際英語学演習V・VI」の成果として、卒業論文を提出しなければなりません。提出期間と提出場所はALBOで連絡します。

ゼミの募集

- ①2年生の「国際英語学演習Ⅰ・Ⅱ」の募集は前年度の1年次に行います。
- ②3年生の「国際英語学演習Ⅲ・Ⅳ」の募集は前年度の2年次に行います。
- ③4年生の「国際英語学演習Ⅴ・Ⅵ」のクラスは3年次の持ち上がりとなります。

(2) 選択必修科目

以下の科目からいずれか1つを選択します。希望研修先は1年次の秋学期に募集し、調整の上で決定されます。これらの研修は、事前学習として履修する学期の授業を受けなければなりません。夏季休暇と春季休暇を利用し、3週間程度の研修を実施するものです。

《研修先》

- ①アメリカ研修…University of Massachusetts(Boston)
- ②オーストラリア研修…University of the Sunshine Coast (Queensland)
- ③海外基礎研究…Global Challenge Program(Hawaii)

(3) 選択科目

選択科目のうちローマ数字I・IIが記されている科目はそれぞれ独立した科目ですが、I・IIの順で履修することが望まれます。なお、履修者数を制限する場合があります。

「英語資格講座」科目群

「英語資格講座I・II・III・IV」では、コンピューターを活用したオンライン学習も行いますので、自ら進んで積極的に授業外で課題に取り組む時間と場所を設けること、さらに継続させる意欲が必須となります。

また、「英語資格講座II・III・IV」を履修するには下表外部試験結果のいずれか一つを既に満たしている必要があります。初回授業時に結果を証明するもの(合格通知、合格証書、スコアレポートなどの写し)を担当教員に提出して下さい。団体試験(IP試験)結果も有効です。履修希望者が多い場合は、異なる試験の結果報告を提出すると履修優先度が高まります。また、下表に掲載されていない外部試験も、その結果証明書を受け付けます。指定日までに証明書の提出が無い場合は履修できませんので注意して下さい。

	TOEIC-LR	TOEIC-SW	TOEFL iBT	TOEFL PBT	STEP(英検)
英語資格講座 I	制限なし				
英語資格講座 II	450	180	32	400	準2級
英語資格講座 III	650	220	52	470	2級
英語資格講座 IV					
英語資格講座 V	制限なし				
英語資格講座 VI	制限なし				

履修希望者は初回授業に必ず出席して下さい。欠席の場合は、理由の如何に関わらず履修できません(第三者が発行する証明書の提出がある場合を除く)。

「日本語教育実習I・II」

「日本語教育実習I」

事前学習、事前準備としての講義参加に加えて、海外での実習が義務づけられます(費用は自己負担)。例年は、ニュージーランドを訪れ、ホームステイをしながら中高一貫校で日本語を教えています(初回授業時に発表)。実際に英語を駆使しながら日本語教育を経験することで、責務に必要とされる能力(計画する力、解説する力、学習支援する力など)を高めます。また、研修校の担当教員と英語でコミュニケーションを行うことで教えることに関わる語彙や表現を修得し、英語を使って働くことについて理解を深めます。

「日本語教育実習II」

事前学習、事前準備としての講義参加に加えて、学内もしくは学外(国内)における実習が義務づけられます(費用は自己負担)。初回授業時に実習の場所と形態について発表します。

「国内企業インターンシップ」

- ①一般企業・非営利団体にて、実務および実習体験を行い、後日「参加報告書」及び「研修日誌」を提出します。
- ②一定の条件を満たすと「国内企業インターンシップ」として2単位認定されます(認定)。
- ③希望者全員が実習を受けられるとは限りません。
- ④履修登録は不要です。履修登録制限単位には含めません。

「海外業界研究I・II」

この科目は全学年に開講します。履修制限単位に含めませんが、卒業所要単位には含めます。また、受講生数に制限があります。夏季休暇中または春季休暇中に、アメリカにおける業界研究と職場体験をします。「海外業界研究I」では3週間、「海外業界研究II」では6週間の期間となります。事前学習としての授業を受けなければなりません。4年生秋学期の履修はできません。

詳細については、ガイダンス時の説明および別途実施の説明会に参加し、確認して下さい。

研修先	夏季休暇(春学期)		春季休暇(秋学期)	
ロサンゼルス (カルフォルニア州)	教員	企業	教員	企業
ホノルル(ハワイ州)	教員	企業	教員	企業

※都合により、研修内容が変更されることがあります。

「海外留学」

- ①ISEP加盟大学、および本学海外交流協定大学へ交換留学生として選抜派遣された学生ならびにセメスター留学で選抜派遣された学生が、留学先大学で取得した単位については、原則として国際英語学科のカリキュラムにある対応する科目に読み替えてこれを認定します。
- ②上記読み替えのきかない科目の中で、国際英語学科が認めた科目については、「海外留学」として認定します。ただし、「海外留学」として認定できる単位の総数は12単位までとし、分割認定も認めます。

Learning Support Wing (L.S.Wing：学習支援センター)の使用について

国際英語学科全学生が自由に入出りできる学習支援施設(4号館4階)です。L.S.Wingは第1・2・3マルチメディア演習室と同じ4階にあり、施設内にはグループ・個人学習エリアや遠隔授業実習室、L.S.Wingの2階部分には個別学習室、さらに5階には卒業研究・各種資格等の関連図書を閲覧できる資料室(Library)を利用することもできます。L.S.Wing内での会話は英語のみとします。外国人を中心とした教員が常駐し、グループまたは個人指導などを行います。

このウィングは学生の学習を支援する教育施設です。日本語で談笑する場所ではありません。World Englishesの理念は、2カ国語の信念を持っていますが、学習支援のためにL.S.Wing言語ポリシーは、原則として“English Only”です。その主旨に沿わない行動が所見されたときには、退出を求められることもあります。お互いに注意して最大限に活用しましょう。

TOEICテスト学内受験について

①1～3年生は年1回のTOEIC受験が必須で、学内実施する団体試験(12月)を強制受験とします。

※4年生は任意受験。

※交換留学(ISEP・個別)、セメスター留学などの海外留学をする学生は該当年度のみ免除。

※5月試験(有料)は任意受験。

※12月試験(無料)は本人による申込みは不要で、受験しない場合のみ申請が必要。

※12月試験(無料)は名古屋キャンパスで実施するが、国際センターが定める要件を満たした場合のみ変更可能(本人申請が必要)。

※12月試験(無料)の受験ができない場合、公開テストによるTOEICの申し込みを各自で行い、スコアレポートを12月授業最終日までに所属ピアの教員へ提出することが義務。

※欠席や不受験に伴う理由書提出やペナルティーに関して、5月試験は不要、12月試験は国際センターの取り決めに従う。

②団体試験の結果スコアは、受験学生本人と国際英語学科に報告されます。

学習発表会(Annual Students' Convention) の開催

国際英語学科では、学生の学習成果を発表する会を秋学期に開催します。これは、学生の保護者及び出身高校の先生方を大学へ招待して、プレゼンテーション技術や英語力など大学での学習成果を披露する会です。学生全員の参加を必須とします。

再試験

再試験については以下の通りです。

《対象科目》 必修科目、選択必修科目、教職必修科目

※ただし、「シンガポール研修」、「アメリカ研修」、「オーストラリア研修」、「海外基礎研究」、「国際英語学演習I～VI」を除く。また科目により実施しないこともあります。

《対象学年》 4年生

《再試験受験制限単位》(学部固有科目)

①再試験については、春学期・秋学期あわせて8単位を超えて申し込みおよび受験することはできません。

②再試験の受験・不受験に関わらず、申し込みをした時点で制限単位(8単位)に含まれます。

Peer Support System (担任制度)について

Peer Support Systemとは、教員が授業外で一定数の学生を担当として受け持ち、大学生活に要する各種の指導を行うことを基盤とします。6クラス編成のもとに担任と副担任を各クラスに置きます。学生は、同教員の指導のもとに随時、互いに大学での学習全般のことについて支援し合います。定期的にグループごとにミーティングを持ち、問題点の把握とその解消につとめます。

1年生が2年生に進級すると、次に入学してきた1年生たちのケアを教員の指導のもとに実施します。このように年次が進み、最終的には4年生の学生グループが全下級生たちのケアを教員の指導のもとに実施するシステムです。

オフィス・アワーについて

国際英語学科では、学部の教員がみなさんの学習について相談に出来るためオフィス・アワーという制度を設けています。授業の前後にお話をするのももちろんできますが、研究室等においてきめ細かい対応や指導を受けることもできます。オフィス・アワーの時間帯は決まっていますので詳細は学科教員に確認して下さい。

国際英語学科独自ホームページ

学部独自でホームページがあり、国際英語学科の特徴や各教員について(研究室・連絡先など)を掲載しております。またL.S.Wingの教室借用やAV機器等の予約が行えます。

<http://www.chukyo-u.ac.jp/educate/inteng/index.html>

履修・学修アドバイザー制度について

国際英語学科では、「履修・学修アドバイザー制度」を導入しています。成績評価、単位修得状況が一定基準を下回る学生に①アドバイスを与え、②さらなる学修意欲の促進を期待し、③成績向上を目指すものです。

この制度は、主にPeer Support System(担任制度)担当教員またはゼミ担当教員によって運営されます。

学年	セメスター	総修得単位数		GPA値	履修登録可能上限の累積
1	1	14単位以下	または	各セメスター 1.0未満	24
	2	32単位以下			48
2	3	46単位以下			72
	4	62単位以下			96
3	5	76単位以下			120
	6	90単位以下			144
4	7	指導なし			
	8	留年者についてはゼミ担当教員による指導を受ける。			

《指導対象者の決定》

総修得単位数とGPA(グレード・ポイント・アベレージ)の二つの基準により、セメスターごとに決定されます。

- ①指導対象となる総修得単位数は、各セメスターの履修登録可能上限の累積に対し、60%~65%を目安としています。
- ②GPAによる指導は、合格成績評価の最低基準「C」=GPA1.0を下回る場合を対象とします。
- ③以上、①と②の双方、または①と②のうち、いずれかの基準に該当する場合が指導の対象となります。

《指導の流れ》

- ①指導対象者が決定されると、教務課よりその保護者あて(大学届出住所)に文書を発送します。
- ②指導対象学生には、別途ALBOでも通知します。
- ③教務課で学修申告ノート(指導アンケート)を記入します。
- ④指導担当教員(アドバイザー)による面接指導を受けます。

《指導時期》

前年度秋学期分…4月中旬、当該年度春学期分…10月上旬を目安とします。

※「履修・学修アドバイザー制度」についての質問等は、教務課窓口で問い合わせして下さい。

全学開放科目

本学では、自分の所属学部以外の学部が開講している学部固有科目を履修・修得することができます。履修にあたっては履修登録制限単位に含まれます。修得した科目は、下記の表に従い卒業所要単位に含まれます。

対象科目

全学開放科目時間割表で確認して下さい。

履修方法

全学開放科目の履修希望者は以下の手順で履修の申し込みを行って下さい。

- ①教務課窓口で「全学開放科目時間割表」を参照し、履修希望科目を決定する。
- ②教務課窓口で「全学開放科目申込カード」を受け取り、必要事項を記入する。
- ③履修を希望するクラスの初回の授業に出席し、授業担当教員から履修の許可を得る(申込カードに授業担当教員の承諾サインをもらい「担当教員控」を授業担当教員に渡す)。
- ④申込カードの「教務課控」を教務課に提出する。
※CUBICS履修登録、CUBICS履修登録修正はできません。
- ⑤申込み期間はALBOで確認して下さい。

単位認定

卒業所要単位としては下表のとおり認定されます。

学部	認定区分	単位数
文	学部固有選択単位	4単位 (4単位を超えて修得した単位は自由単位となります)
国際英語		
国際教養		
心理		
現代社会		
法		
総合政策		
経済		
経営		
工		
スポーツ科		

注意事項

- ①履修登録制限単位に含まれます。
- ②履修を希望する科目の開講学部を確認して下さい。
- ③教室変更・試験日程等の連絡事項は、開講学部のALBOまたはホームページを確認して下さい。
- ④開講キャンパス(名古屋・豊田)が異なる学部の科目も履修できますが、移動時間(約1時間)を考慮して履修計画を立てて下さい。
- ⑤全学開放科目の履修者に対しては、再試験を実施しません。
- ⑥休講・補講等は、ALBOで確認して下さい。

愛知県単位互換制度

愛知県内すべての4年制大学が加盟する愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」は、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される様々な科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。

出願手続き

3月中旬に愛知学長懇話会ホームページにて、当該年度の「科目開設大学概要」「講義概要」等が公開されます。

ホームページに記載されている情報を参照し、所定の出願票(1科目につき1枚)に希望する科目等の必要事項を記入して、所定の期間内に教務課窓口へ提出して下さい。出願票は、愛知学長懇話会ホームページからダウンロードするか、教務課窓口で受け取って下さい。

出願票の提出期間は、年に1回4月上旬のみ(詳細はALBOで案内)です。受講可能対象学年は、1～3年生です。年間履修制限単位数は、4単位です。履修登録制限単位に含みません。

大学によっては募集定員や、出願票に記入された「志望動機」に基づいて受講者の選考が行われる場合があります。

受講料は無料です。ただし、科目によっては実験・実習等に必要となる実費について必要となる場合があります。また、他大学の科目と本学開講科目(既に修得の場合)が同じ内容である場合には履修をしても単位認定できないことがあります。

単位認定

単位互換履修生(特別聴講学生)は、履修許可を受けた科目を履修し、当該科目の試験に合格すれば本学の卒業所要単位として単位認定を受けることができます(下記の表参照)。成績は学期末に教務課にて通知します。通知時期はALBOにて連絡します。成績評価は、認定「N」とします。なお、再試験は実施しません。

学部	単位数	認定区分
文	4単位	全学共通選択単位
国際英語	6単位	フロート単位
国際教養	4単位	
心理	4単位	
現代社会	6単位	
法	4単位	全学共通選択単位
総合政策	4単位	
経済	4単位	
経営	4単位	学部固有選択単位
工	4単位	
スポーツ科	4単位	全学共通選択単位

履修手続き

出願者の受講の可否は、4月下旬に所属大学を通じてその結果が学生本人に通知されます。履修許可の通知を受けた学生は、科目開設大学の指示に従って所定の履修手続きを行うことになります。また、履修登録日程の関係上、科目開設大学において履修者決定までの間、その授業の仮受講が認められていますので、出願票のコピー(本人控)を携帯し、仮の受講票とすることができます。

身分について

履修手続きを完了した学生は、科目開設大学で「単位互換履修生」または「特別聴講学生」となります。科目開設大学によっては身分証明書が発行されます。単位互換履修生(特別聴講学生)は、科目開設大学の施設(図書館等)を利用することができますが、科目開設大学のルールを良く理解しそれに従った行動をして下さい。

単位互換履修生(特別聴講学生)となった学生への連絡

単位互換履修生(特別聴講学生)となっている大学の休講等の連絡については、ALBOの「お知らせ」で連絡します。